

日時：2022年7月2日（土）13:00～15:00
 場所：山梨大学東京オフィス平河町会議室

日本パーソナリティ心理学会第146回常任理事会議事録

出席：松田英子理事長，尾見康博副理事長，小塩真司，文野 洋，田中麻未，森 津太子，
 中村 真，武田美亜
 欠席：向田久美子

報告事項

I 理事長挨拶

II 各種委員会報告

1 機関誌編集委員会（小塩委員長）

(1) 機関誌掲載情報

第31巻第1号が7月に発行予定（原著4篇，ショート6篇）である旨の報告があった。また，第31巻2号の掲載予定論文（2022年6月末現在で原著1篇）について報告があった。

(2) 審査状況

以下の通り，2022年の審査状況（6/29時点）について報告があった。

年月	採択	審査中	修正中	不採択	取り下げ	投稿時不採択	投稿数
2021							
1	2	10	10	1	1	0	1
2	4	9	6	2	2	1	7
3	1	11	8	1	1	0	9
4	2	10	13	0	1	0	6
5	0	18	5	1	3	1	5
6	7	10	8	1	0	2	7
7	2	13	6	4	0	1	5
8	1	10	8	0	0	0	3
9	3	14	9	4	0	0	6
10	1	6	9	0	0	0	2
11	4	7	9	2	0	0	3
12	4	8	4	3	0	0	3
年月	採択	審査中	修正中	不採択	取り下げ	投稿時不採択	投稿数
2022							
1	2	6	4	1	0	0	4
2	3	6	2	0	0	0	5
3	2			2	0	0	7
4	2			2	0	0	4
5	2			4	0	0	6
6	1	13	6	2	1	0	4

(3) 論文の訂正依頼

1. 対象となる論文

- ・論文番号 A-656
- ・青年期において自立と依存のバランスが援助要請に及ぼす影響
- ・<https://doi.org/10.2132/personality.30.1.3>

訂正は5カ所

内規に従い以下の手続きを行った。

- (1)委員長と副委員長で協議
- (2)編集委員会へ可否を付議
- (3)常任理事会に報告

以下の件について審議依頼があり、常任理事会として追認された。

2 経常的研究交流委員会（田中委員長）

(1) 大会企画（進捗状況）

経常的研究交流委員会企画について、演題「パーソナリティから見た非認知能力」と企画趣旨について報告された。

(2) MPP 企画

企画を開催する方向で検討してきたが、諸事情を総合的に勘案した結果、今年度の開催は断念するという判断に至った旨が報告された。

(3) 国際交流委員について

前回の常任理事会では、担当者を固定しない方針であったが、さまざまな状況を考慮し、「国際交流企画班」を設置することに決まった旨が報告された。主な業務内容は、以下の通りである。

- ① 大会の国際交流企画や特別講演などに関する活動
- ② 海外学会誌からのニュース配信の依頼への対応や、学会 HP の英語版の作成などについて、広報委員会と相談をしながら対応する

3 広報委員会（文野委員長）

(1) 定期的活動

ウェブサイトの更新（2回）、メールニュースの配信（12回）、ML上での業務調整などの活動内容が報告された。

学会公式サイトの大大会一覧の会場名の記載について、会場名（大学の場合は学部名を入れない）で統一することとした。

(2) YPP

進捗状況について別途資料に基づいて報告がなされた。2022年11月27日（日）にオンライン開催（参加費無料）することとした。

〈企画全体の目的〉 新型コロナウイルスの感染拡大は、今もなお衰えを知らず、研究活動にも甚大な影響を及ぼしている。

とりわけその影響は、研究の遂行の困難さだけでなく、学会活動が軒並みオンラインになったことにより、研究発信や交流の機会が縮小されるなど、若手研究者が大きなあおりを受けていることは言うまでもない。

例年、ヤングサイコロジストプログラム(YPP)は、様々な心理学領域の若手研究者が集い、互いの研究内容や研究に対する姿勢について意見交換する場を提供してきた。研究交流が

希薄になっている今こそ、普段所属しているコミュニティの外の世界とつながることで、自身の研究について新たな視点や気づきを得る機会は極めて重要である。そこで、今年度の2022年度ヤングサイコロジストプログラム(YPP2022)では、「充実した院生生活のために-研究のハウツーとキャリアアップに向けて-」をメインテーマとし、このコロナ禍での研究遂行に打ち勝つ有益な情報を共有することを目的とする。

YPP2022では、次の2つの企画を実施する。まず、企画1では、国内外で精力的に研究を進めていらっしゃる2名の先生を招聘し、外部講師として心理学の教育者・研究者という立場から、研究者として生きる上で必要なtipsについて、ご自身の研究やこれまでの経験を踏まえて話題提供をしていただく。続いて、企画2では、昨今の研究環境では所属研究室以外の研究者との交流が限られており、また、近年のYPPでは修士進学の学生や修士課程に在籍する若手研究者が多く参加していることから、同世代かつ他分野の若手研究者との関連な議論を行う場として「ミニ研究発表セッション」を実施する。

実施する企画:

1. 研究者による講演および質疑応答

*松本昇先生(信州大学 人文学部 准教授)「大学院ライフハック:睡眠, 食事, 麻雀」

*塚本早織先生(愛知学院大学 心理学部 講師)「院生室から海外へー失敗を振り返りながらー」

2. ミニ研究発表セッション

(3) 今後の活動予定(継続を含む)

ウェブサイトの更新, メールニュースの配信(随時), 委員分担コンテンツの更新, YPP2022の企画サポートを行っていく旨が報告された。

4 学会賞選考委員会(向田委員長が欠席のため, 書面による報告があった)

委員のメンバーに論文(原著8本, ショートレポート7本)の評価をしていただいている最中であり, 7月19日の締め切り後, 結果が出揃い次第, 常任理事会にて報告する予定である旨が報告された。

III 日本心理学諸学会連合(松田理事長)

松田理事長より, 公認心理師の上位資格(専門公認心理師)に関する連絡があった旨報告がなされた。また, 2022年6月18日に開催された会議があり, 内容は裁判, 心理学検定, 学会案内文書, こども庁創設に関する会議への出席報告, 国際委員会調査報告等であったことが報告された。

IV その他

松田理事長より, 会員同士の交流としてニューズレターを作成等の検討について会員から要望および提案があったことが報告された。ラジオ(インタビュー等の音声ファイル)などのコンテンツの提案など, 意見交換がなされた。実施するとすれば責任委員会は広報委員会と経常的交流委員会であると考えられるので, アイディアを検討し, 次回以降引き続き検

討することとした。

審議事項

I 財務関連事項

5月21日に行われた監査の結果について、森財務担当常任理事より2021年度の決算報告があり、審議の結果、承認された。また、2022年度予算が示され、審議の結果、承認された。

監事より、会計の透明性を向上するため、基金口座と選挙積立費を整理することが提案された旨が報告された。これについては引き続き検討することとした。

II 第31回大会について

中村準備委員長、森事務局長から準備進捗状況、今後の検討について報告があった。また、会場の下見について提案がなされ、中村準備委員長、森事務局長、松田理事長、尾見副理事長、武田総務担当の5名が参加すること、下見のための交通費、前泊の宿泊費を大会予算から計上することについて提案がなされ、審議の結果、承認された。

III 会員の入退会に関する件（事務局からの報告事項を含む）

中村事務局長より、別紙資料に基づいて、新入会希望者30名（ML審議にて承認済み26名を含む）が示され、会則第5条に照らして慎重に審議した結果、全員の入会が承認された。併せて、退会希望者24名、宛先不明者7名について報告があった。審議の結果、退会希望者24名の退会が承認された。

以上の承認を受けて、2022年6月27日現在、会員総数は848名である（今回の審議対象である4名の新規入会希望者は含まない）。内訳は、一般会員676名、院生会員159名、学生会員1名、名誉会員8名、賛助会員4名。

IV 次回常任理事会の日程について

11月13日（日）14:00より、山梨大学東京オフィス平河町会議室にて対面で開催することとした。ただし、必要に応じて、11月3日より前に常任理事会を追加開催する可能性があることを申し合わせた。開催するかどうかは8月の「大会準備委員会」会議で判断することとした。

V その他

第31回大会の対面開催を執行するか、オンライン開催にするかどうかは、8月21日の発表申し込み締め切りを踏まえて「大会準備委員会」会議で決定する旨を申し合わせた。同会議は以下の日時にオンラインで開催する。

8月26日（金）10:00～（遅くとも12:00まで）を予定。

以上